

1. 活動報告（事務局 記）

—11月27日（土）15名の参加でした。

- ①水路の仮修復で水車の駆動を再開しました。
 - ②田んぼの排水よけじを復旧し、メダカ、スジエビの捕獲、蓮田に放流しました。
 - ③湿地帯のスゲの間引き、池のオオカナダモ駆除等のエコアップをしました。
- 他に猪の被害が多く部分修復しました。

—12月05日（日）エコアップ 池ゾーンのイグサ間引き、湿地帯のスゲ抜き取り修復工事
水路中間部排水箇所からU字溝据え付け
参加者は15名でした。

—12月08日（水）北九州市環境局環境モデル都市推進室 千々和課長、生野担当殿引率北九州環境保全ネットワーク（会長 森本嘉人）含む約40名のビオトープの見学がありました。
今井会長、前田エコアップリーダー、原田事務局にてご案内いたしました。
立ち上げ時のエピソード、維持管理活動、問題点など説明し、有意義な質疑応答を行い、ビオトープの新規立ち上げに役立たせていただきました。

—12月18日（土）平成22年最後の活動日収穫祭を行いました。
野草混入の餅つきや猪肉による焼き肉、猪鍋を行い一年間の反省を行いました。参加者は23名でした。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎ 見学者

予定はありません

◎ 行事

—1月 2日（日）活動休止

—1月15日（土）初集会（年間行事予定打合せ）

3. 来訪者の声（東屋のノートより一部抜粋）

ノートの記載はありません

口頭にての声

—12月8日— 水路の水量が少ないため水車がシーズのように正転・反転を繰り返していることで、水車は常に正転するという既成概念にとらわれず、此処の水車のように正転・反転を繰り返す事もあり、正転だけが正しいとは限らない。シーズのような水車があっても不思議ではない。それを売りにすればどうか？ 北九州市環境保全ネットワークの会一会員より

4. 会員の声 「二俣瀬木田の古城跡探索」part-6 (内藤武顕 記)

もう初夢

一喜一憂の古城跡探索の一年がアツと言う間に過ぎました。12月16日、この冬一番の寒気が二俣瀬に初雪を運んで来ました。木田の山々にはうっすらと雪化粧。春、夏、秋と夢を追い続けた山の頂が神秘的に包まれて見えました。春は「よいしょ」と掛け声だけ元気の山歩き、夏は酷暑にバテながら文献あさり、秋は新しい人たち(郷土歴史家)に出会い又息を吹き返しました。

そして、11月21日、二俣瀬校区文化祭になんとか「浪漫の里」と題して、パネルに成果を発表することが出来ました。私たちの活動は地元関心度ゼロからの出発でした。文化祭当日「落ち着いた雰囲気です。展示期間を少し延長できませんか・・・」等の声を校区内外の方々から戴きました。ありがたい事だと思いました。多くの人たちにささえられた歯朶木の丸城跡探索の前半でした。

多分初夢は「※堀切跡がみつかったぞ！万歳！」でしょう。二俣瀬の宝はビオトープが一番、何年か経てば歯朶木の丸城跡が二番目に浮上することになるでしょう。

「面白きことも無き世を、おもしろく住みなすものは心なり」ご存知高杉晋作の辞世の句です。全く同感です。わが※赤穂軍団 里山ビオトープ二俣瀬も紆余曲折の内2010年を乗り切りました。頼もしき軍団に乾盃！

終わりに会員ご家族の皆様のご健康とご多幸を心より申し上げます。

さて二句

“東屋は 焼き芋こぼす 笑いかな”

“水車(みずくるま) 十歳(ととせ) を刻む 文化の日”

編集局より説明

※ 堀切跡・・・戦国時代以後の山城にあった敵からの防御目的に掘った跡

※ 赤穂軍団・・・大石内蔵助率いる47士は当初は倍人数の集団であったが最終的には本当に心ある志士の47名が意志貫徹の集団となって主君の仇打ちを成就した。現状ビオトープ活動のたとえ

5. ビオトープ関連 (ビオトープのトンボたち) (管 哲郎 記)

(31) オオイトトンボ (イトトンボ科 クロイトトンボ属)

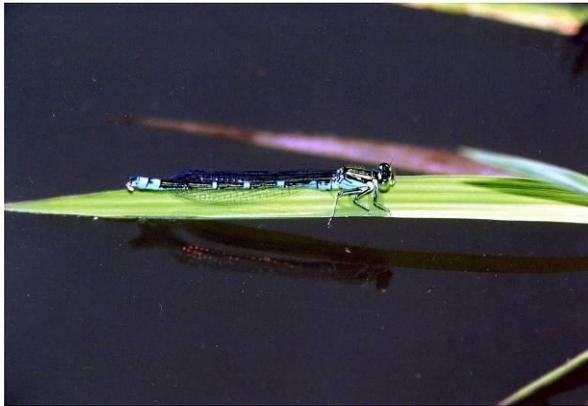
Paracercion sieboldii (Selys)

あまりなじみの無いイトトンボで数も少ない少数派のトンボ、同属にクロイトトンボ、ムスジイトトンボ、セスジイトトンボがありますが、この3種は比較的数が多く安定しているようです。特にクロイトトンボは県内ではどこの池にも見られるくらいポピュラーなイトトンボでビオトープにもたくさん見られます。

オオイトトンボはビオトープにいることで驚いたと同時に大切な生息地となってしまいました。筆者は以前本種を撮影するのに広島県の湿原までわざわざ出かけていました。山口県内の生息調査は不十分で、現在でも棲息の確認できている場所は限られておりこれからの課題です。

棲息場所は植生豊かな池や沼、湿地、水田、ゆるやかな流れなどにはなっていますが、県内では植生豊かなため池でしか確認できていません。4月半ばより出現し10月に入ると姿を消します。やはり5月～9月が最盛期となります。

日本の特産種と思っていましたが、国外では台湾で確認されているようです。もちろん、日本全国にいますが東北地方より北、九州南部では産地が限定されるようです。



オオイトトンボ (♂) 美祿市産



オオイトトンボ (♀) 広島県産



オオイトトンボ (♂) 豊北町産



連結し交尾に移るペア 広島県産

6. 会よりの連絡事項 (事務局より)

1) 初春の活動予定

来年度第一日曜日 1月2日は休みで第三土曜日 15日が初集会となり、ふれあいセンターで年間行事予定など取決めを行います。

今年もお世話になりました。来年もよろしくお願いします。

2) 協力団体との行事

ア、エコ仲間の集い参加 2月27日(日) 常盤湖水ホール

イ、宇部市地球温暖化対策ネットワークのカーボン・オフセット「CO2吸収減の森づくり」
に共催で協働作業 3月6日(日) 亀浦公園

3) 今後の活動形態

宇部環境コミュニティ(浮田正夫会長)傘下での活動に対する当会から理事、会員4名が宇部環境コミュニティに登録をする条件で市議会の下承を取ることで進んでいます。

詳しくは初集会で上記3件を説明いたします。

7. 編集後記

もう、2010年が終わろうとしていますね。2010年は、結局一度もビオトープに足を運びませんでした。そんな私が、こうやって編集委員としてビオトープに関わらせていただき、二俣瀬の四季を感じることが出来たととても良かったです。育児に没頭した2010年、この12月で1歳になった娘・蘭は、藤山保育園に入り、毎日元気に過ごしています。好きなことは、音楽に合わせて踊ること、自然も大好きなのびのびとした子になってくれたらいいなあ・・・と思っています。宇部の拠点もできたし、1月は、親子で顔が出せるかな～と思っています。ちなみに娘は、主人にそっくりだそうです。

(小田 政江 記)

「さあ、2010年がはじまった！」と思ったのがつい昨日のこのようです。今年は大人の観察隊としての活動がたくさんあり、野鳥や昆虫、植物について学ぶことができると楽しみにしていたのですが…。気がつけば2010年が終わろうとしているではありませんか。「果たしてこの1年、私は何をしていたんだろうか。少しでも成長したんだろうか。」毎年、年末になるとこの疑問が頭に浮かびます。そして、答えは決まって「何もしてないなあ。今年も進歩なしか(泣)。」

今年最も印象深かったのは、ゴールデンウィークの屋久島旅行です。幸いにも旅行中は天候に恵まれ、縄文杉登山やものけの森を気分晴れやかに歩き、全身で自然を感じることができたことです。こんな経験は2度とできないかもしれません。今でも自分が屋久島の地に立っていたなんて信じられないくらいです。「屋久島に行こう。」と誘い、背中を押してくれた友人に感謝します。

『無理だと思っていることでも、ちょっとしたきっかけがあれば現実のものとなる。』これが今年私が身にしみて感じたことです。

本年はたいへんお世話になり、誠にありがとうございました。来年も皆さんにとって実りある年となりますようにお祈り申し上げます。

(松村 悠美 記)